

# 令和2(2020)年度 病害虫発生予報 第5号

令和2(2020)年8月21日  
栃木県農業環境指導センター

## 高温による害虫の増加に注意しましょう！ いちごは定植前に病害虫防除を徹底しましょう！

予想期間8月下旬～9月下旬 予報の根拠で、(+)は増加要因、(-)は減少要因を表す。

### 1 大豆 ベと病

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比98%：ほ場率、平年比76%：株率)。(±)  
・ 品種「里のほほえみ」はべと病が発生しやすい。(+)  
・ 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並～多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 開花10日前から子実肥大期にランマンフロアブル、ベトファイター顆粒水和剤等を散布する。  
・ 発生が拡大する場合は子実肥大中期(開花40日後頃)まで追加防除する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース\(速報No.10\)](#)を当センターホームページ(HP)に掲載中。

### 2 大豆 吸実性カメムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比62%：ほ場率、平年比50%：株率)。(±)  
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)  
・ 8月第2半旬までのフェロモントラップによるホソヘリカメムシ総誘殺数は平年と比べてやや多い。(+)
- (3) 対 策 ・ 開花期の15日後頃から、トレボン乳剤、スミチオン乳剤等を10～14日間隔で散布する。なお、子実肥大中期(開花40日後頃)の吸汁害は、減収および品質低下が大きい  
ため、9月も継続して防除を行う。

### 3 いちご 炭疽病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや多い(平年比168%：ほ場率、平年比267%：株率)。(+)  
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 植物体の濡れ時間が長いと感染・発病が助長されるので、かん水は午前中に行い、夕方には地上部が乾いた状態になるよう、かん水の時間や量を調節する。また、水はねで感染するので丁寧なかん水を心がける。  
・ 症状が出てからの防除は困難なので、予防を主体に薬剤のローテーション散布を行う。苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。  
・ 発病株や感染が疑われる株は早急に取り除き、ほ場外で適切に処分する。  
・ 定植後も潜在感染株が発病・枯死することがあるので、しばらく注意して観察する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース\(速報No.11\)](#)、[炭疽病薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 4 いちご ハダニ類

- (1) 発生予想 発生量：**平年並**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量はやや少ない(平年比54%：ほ場率、平年比44%：株率)。(－)  
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ コロマイト水和剤等の薬剤散布や農薬炭酸ガス処理により、定植前に徹底防除を行い、本ぼへの持ち込みを防ぐ。化学農薬はローテーション散布を行うことで抵抗性の発達を抑制する。  
・ 育苗期後半～定植当日にモメントフロアブルをかん注する。天敵を導入するほ場では、天敵への影響日数(45日)に注意して使用する。  
・ 雑草はハダニ類の発生源となるため、ほ場内外を除草する。
- (4) 備 考 ・ [ナミハダニ薬剤感受性検定結果](#)を当センターHPに掲載中。

### 5 いちご アブラムシ類

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は平年並(平年比116%：ほ場率、平年比132%：株率)。(±)  
・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+)
- (3) 対 策 ・ 苗による本ぼへの持ち込みを防ぐため、育苗での防除を徹底する。発生が見られる場

- 合は、モスピラン顆粒水和剤、ウララDF等を散布する。
- ・ 定植時に粒剤やかん注剤を施用する。
  - ・ 雑草はアブラムシ類の発生源となるため、ほ場内外を除草する。
  - ・ 施設の開口部に防虫ネット等を張り、有翅アブラムシ類の侵入を防ぐ。

## 6 りんご 褐斑病

- (1) 発生予想 発生量：**多い**
- (2) 根 拠 ・ 現在の発生量は多い(平年比 66%：ほ場率、平年比 1500%：葉率)。(+)  
 ・ 向こう1か月の平均気温は高く、降水量は平年並～多い見込み。(±)
- (3) 対 策 ・ 予防散布による防除を基本とし、予防効果の高い剤を中心に定期的に防除する。  
 ・ ほ場内を良く観察し、発生が確認されたらオンリーワンフロアブル、ポリオキシシAL水和剤等を散布する。
- (4) 備 考 ・ [植物防疫ニュース\(速報 No. 7\)](#)を当センターHPに掲載中。

## 7 大豆・野菜類・花き類 ハスモンヨトウ

- (1) 発生予想 発生量：**やや多い**
- (2) 根 拠 ・ 8月第2半旬までのフェロモントラップへの総誘殺数は平年並。(±)  
 ・ 向こう1か月の平均気温は高い見込み。(+) )
- (3) 対 策 ・ 施設栽培では開口部に防虫ネット等を張り、侵入を防ぐ。  
 ・ 定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、卵塊や分散前の幼虫を寄生葉とともに摘み取り処分する。  
 ・ 幼虫の齢期が進むと薬剤が効きにくくなるので、発生初期に薬剤を散布する。

## 8 その他の病害虫

作物名	病害虫名	現況	発生予想	作物名	病害虫名	現況	発生予想
水稲	穂いもち	—	<b>やや多</b>	なす	うどんこ病	やや多	<b>やや多</b>
	紋枯病	多	<b>多</b>	りんご	斑点落葉病	多	<b>多</b>
大豆	紫斑病	—	<b>平年並</b>	果樹類	カメムシ類	多	<b>多</b>
	フスジヒメムシ	多	<b>多</b>	きく	ハダニ類	平年並	<b>やや多</b>
大豆・野菜類	タバコガ類	やや少	<b>平年並</b>				

### ○ トマト黄化葉巻病 (TYLCV) の防除対策

TYLCVはタバココナジラミによって媒介されます。夏秋トマトで黄化葉巻病が発生したほ場では、施設の蒸し込みを行うなど、残さに寄生している媒介虫を施設外に「出さない」対策を徹底しましょう。また収穫後の残さは適切に処分しましょう。詳しくは、[病害虫防除対策のポイント No. 22\(トマト黄化葉巻病\)](#)を当センターHPに掲載中。

ORACコードを参考に、同一系統の薬剤の連用を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布しましょう。

○花粉媒介昆虫(ミツバチ、マルハナバチ)や天敵に対する影響日数を目安に薬剤を選択しましょう。

ミツバチ・天敵等に対する農薬の影響の目安①、②、③を栃木県農作物等病害虫雑草防除指針 参考資料に掲載中。<http://www.nouyaku-sys.com/nouyaku/user/haishinfile/list/tochigi>

○農薬は適正に管理し、容器のラベルをよく読み、正しく使いましょう。

### 1か月気象予報 (予報期間8月22日から9月21日 8月20日気象庁発表)

天気は数日の周期で変わります。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または高い確率ともに40%です。

#### 向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)

項目	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気 温	10%	20%	70%
降 水 量	20%	40%	40%
日照時間	40%	30%	30%

詳しくは農業環境指導センター (Tel 028-626-3086) までお問合せください。

病害虫情報発表のお知らせはツイッター「[栃木県農政部 \(@tochigi\\_nousei\)](#)」、農業環境指導センターホームページ (<http://www.jpnp.ne.jp/tochigi/index.html>) でもご覧になれます。